

## 熊本医療センター

### 基本理念 <最新の知識・医療技術と礼節をもって、良質で安全な医療を目指します>

当院は、JR 鹿児島本線熊本駅より北北東 2km に位置し熊本城の隣にあります。明治 4 年 8 月に設置された鎮西鎮台病院を前身とし、衛戍病院、熊本第一陸軍病院を経て昭和 20 年 12 月 1 日に厚生省に移管され国立熊本病院、平成 16 年 4 月 1 日に独立行政法人国立病院機構熊本医療センターとなり現在に至っています。各診療科が密に連携することにより総合的な診療に努め、特に救命救急医療に力を入れるとともに、造血幹細胞移植等の高度先進医療に積極的に取り組み、県外から受診者も多く、担当する医療圏は広域となっています。クリティカルパスに積極的に取り組み、質の高い医療を効率的に提供することへ努めています。

臨床研修指定病院として、研修医・専修医・レジデントの教育に当たるとともに、当院地域医療研修センターにおける研修会には、年間 40,000 名を超える医師・医療従事者が参加し、生涯研修・研鑽の場を担っています。卒後教育は海外の医師へも開かれており、毎年約 30 名の留学生が当院にて研修を受けていることなど国際性のある研修施設でもあります。

薬剤部は、病院機能に応じた救命救急医療における感染症、循環器疾患、精神疾患等、地域がん診療連携拠点病院におけるがん、緩和医療等幅広い医療に対して業務を行っています。

#### 【施設概要】 2023. 7. 1 (データは R4 年度実績)

1. 所在地 〒860-0008 熊本市中央区二の丸 1-5
2. 特徴 救命救急センター (救急告示病院、病院群輪番制病院) 災害拠点病院 (地域災害医療センター)、地域がん診療連携拠点病院、精神科救急医療施設、開放型病院、地域医療支援病院、臨床研修指定病院、骨髄移植実施施設、国際医療協力基幹施設、熊本県地域救急医療体制支援病院・病院機能評価認定 3rd. G Ver. 1. 0 (一般病院 2)、付加機能評価 (救急医療機能 Ver. 2. 0)
3. 診療科 34 診療科  
【外科系】  
外科、頭頸部外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、小児外科、整形外科  
形成外科、泌尿器科、産婦人科、歯科・口腔外科  
【内科系】  
総合診療科、内科、腎臓内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、  
消化器内科、循環器内科、脳神経内科、感染症内科  
【外科系・内科系以外】  
眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、  
麻酔科、放射線治療科、精神科、リウマチ科、小児科、皮膚科
4. 病床数 550 床 (一般) ; 500 床 (精神) ; 50 床
5. 薬剤師数 (定数 : 37 名)  
薬剤部長 1 名、副薬剤部長 2 名、主任 12 名 (うち治験 2 名)  
薬剤師 17 名 (うち治験 1 名)、助手 3 名
6. 主な業務  
(ア) 調剤 入院 127,000 枚/年、外来 6,900 枚/年 (院外処方率 87.7%)  
(イ) 注射 入院 260,000 枚/年、外来 48,000 枚/年  
(ウ) 薬剤管理指導件数 11,000 件/年 (920 件/月)

- (エ) 無菌製剤処理料 I ; 7,600 件/年 (うち閉鎖式使用 3,400 件/年)、II ; 3,800 件/年
- (オ) 外来腫瘍化学療法診療料 1 (抗悪性腫瘍剤投与) 3,100 件/年
- (カ) 病棟薬剤業務実施加算 I ; 28,000 件/年、II ; 14,000 件/年
- (キ) チーム活動 ICT (感染対策防止加算 1)、AST、NST、褥瘡、緩和、リエゾン
- (ク) 薬剤師外来 がん患者指導管理料ハ 24 件/年
- (ケ) 周術期薬剤管理加算件数 800 件/年

7. 特徴的な業務

- ① 処方支援事例を収集・分析し、医療安全、病棟業務の資質向上にむけた教育を日常的に行っている。
- ② 日本医療薬学専門薬剤師研修施設、がん専門薬剤師研修認定施設、薬物療法専門薬剤師研修施設、小児薬物療法薬剤師研修施設であり、専門・認定薬剤師を育成すること一環として、学会発表 (R4 年度 6 演題) 等の学術活動を盛んに行っている。
- ③ 薬学 6 年制実務実習の学生を 1 期あたり 2~5 名受け入れ、薬学卒前教育を担当している。

8. R5 年度の取り組み 入院支援室や周術期薬剤師活動の充実、薬剤師のさらなる増員、PBPM による疑義照会不要プロトコル、手術室における麻薬代行処方プロトコルの運用推進、TPN 無菌調製全病棟拡充、病棟薬剤業務の充実、薬剤師外来業務の拡充

9. システム・設備

項目	有・無
電子カルテ	○
自動錠剤分包機	○
散剤監査システム	○
水剤監査システム	○
散剤分包機	○
安全キャビネット	○
クリーンベンチ	○
注射自動払出装置	○
調剤・注射進捗状況管理システム	○
自動軟膏練り機	○
持参薬鑑別支援装置	○

【病院目標】

- 1. 良質で安全な医療の提供
- 2. 健全経営
  - 1) 新入院、紹介患者数の増加 (スタートダッシュ)
  - 2) 病床利用率の維持
  - 3) 経費節減の推進
  - 4) 診療報酬改定への対応
- 3. 働き方改革への対応 (業務の見直しによる効率化)
- 4. 職員間交流の充実
- 5. コロナ以前の行事等の再開

6. 災害に対する意識の向上

【薬剤部目標】

1. 良質で安全・安心な薬物療法の提供
2. 薬薬連携の強化
3. チーム医療への積極的な参画
4. 業務見直しによる働き方改革
5. 薬剤師としての資質・専門性の向上に努める